

令和5年度
札幌芸術の森及び
本郷新記念札幌彫刻美術館
事業報告書

公益財団法人 札幌市芸術文化財団

目 次

I	管理業務の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	管理業務に係る収支決算・・・・・・・・・・・・	25
III	管理に関する協定書 第34条に規定する自主事業の実施状況・・	26

I 管理業務等の実施状況

1 統括管理業務

▽ 管理運営に係る基本方針の策定

【札幌芸術の森】

施設の設置目的と財団が策定した中期経営計画に基づき、第4期の基本方針を継承しつつ、検証、見直しを行い、札幌市文化芸術基本計画やその他の文化施策に対応し、次の5つの基本方針を策定している。

- ①あらゆる人々が文化芸術に容易に触れることができる多様な事業展開（社会包摂の実践）
- ②様々なアートシーン、ステップに応じた担い手の育成・支援（すそ野拡大、人材育成）
- ③新たな切り口による魅力発信とにぎわいの創出（施設の利用促進）
- ④人々が集い交流する場、地域拠点としての機能の充実（場の提供、交流の輪の創出）
- ⑤安全で利用しやすい施設づくり（利用者目線の施設整備）

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、財団が策定した中期経営計画に基づき、次の4つの基本方針を策定している。

- ①本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開
- ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信
- ③利用者の拡大と次代の担い手の育成
- ④市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

【札幌芸術の森】

利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。

受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、ホームページ上で施設の空き状況を確認できるようにした。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

【札幌芸術の森】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。

▼ 冷暖房について

夏場 28℃、冬場 24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象にクールビズを促進した。

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度 50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引き節電に努めた。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に主催者手配により発電機を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電源の削減に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を控えるとともに、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）

【札幌芸術の森】

- ▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。
- ▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理担当部長を配置している。
- ▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員 9 人を配置している。
- ▼ 木工房においては職員の急な退職により臨時休館日を設ける等の対応が必要となったが、速やかに職員募集を行う他、運営体制の見直しを図ることで、影響を最小限に留めた。
- ▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

《4月・5月》

新採用研修、コンプライアンス研修
安全運転講習

《6月・7月》

普通救命（AED）講習

《10月》

管理職マネジメント研修

《11月》

コンプライアンス研修

《3月》

情報セキュリティ研修

《通年》

防火管理講習

職長・安全衛生管理者講習

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。
- ▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員2人を配置している。
- ▼ 各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

《4月・5月》

新採用研修、コンプライアンス研修

現場研修「鈴木吾郎悠久を舞う」展

《7月》

普通応急手当講習

《9月》

現場研修「生命体の存在」展

《10月》

管理職マネジメント研修

防火管理研修

《11月》

コンプライアンス研修

《12月》

現場研修「かく語りき本郷新」展

自衛消防訓練

《3月》

情報セキュリティ研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

- ▼ 財団内 LAN によるグループウェアを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。
- ▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者（受付、警備、施設設備管理、清掃）と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。
- ▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 財団内 LAN によるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

- ▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

【札幌芸術の森】

- ▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。
- ▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。
- ▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

- ▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

【札幌芸術の森】

- ▼ 札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月8日)	(1) 令和4年度管理運営業務の報告について (2) 令和5年度管理運営業務の経過報告について (3) その他
第2回 (9月20日)	(1) 事業体験（野外美術館謎解きプログラム） (2) 管理運営業務の経過報告について (3) その他
第3回 (12月6日)	(1) 管理運営業務の経過報告について (2) その他
第4回 (3月21日)	(1) 管理運営業務の経過報告について (2) その他
<協議会メンバー> 地 域：芸術の森地区まちづくりセンター所長 利用者：施設利用者 有識者：放送局、コンベンションビューロー、大学教授、MICE 団体 ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア 札幌市：市民文化局文化部長 指定管理者：芸術の森事業部長	

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月9日)	(1) 各施設の重点取組事項について (2) 予算編成時における文化部との連携 (3) 札幌市文化芸術基本計画について (4) その他
第2回 (1月12日)	(1) 今年度の予算執行見込と次年度予算について (2) 次年度の事業展開について (3) 令和6年度文化部予算について (4) 札幌市文化芸術基本計画の概要、進捗状況 (5) その他

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 8月22日	・令和4年度事業報告 ・令和5年度事業経過報告(4～7月)
第2回 12月12日	・令和5年度事業経過報告(8～11月) ・令和6年度事業企画状況
第3回 3月27日	・令和5年度事業経過報告(12～3月) ・令和6年度事業企画状況
<p><協議会メンバー></p> <p>利用者団体：札幌市立大倉山小学校 PTA 利用者団体：札幌彫刻美術館友の会会長 地元自治会：宮の森明和会会長 学識経験者：札幌市立三角山小学校校長 学識経験者：彫刻家 札幌市：市民文化局文化部文化振興課課長 指定管理者：芸術の森事業部彫刻美術館課長</p>	

▼ 政策推進連絡会の開催

開催日

令和6年2月7日 14時30分～15時30分

意見交換等の項目

- (1) 今年度の予算執行見込みについて
- (2) 次年度の事業展開について
- (3) 次年度の文化部予算について
- (4) 札幌市文化芸術基本計画の概要、進捗状況について

(5)「大通情報ステーション」の廃止と「(仮称)大通観光案内・アイヌ文化PRコーナー」の設置について

▽ 財務（資金管理、現金の適正管理）

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。
- ▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。

▽ 要望・苦情対応

【札幌芸術の森】

- ▼ お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内 LAN によるグループウェア等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。
また、アンケートにて要望のあった事項について、対応なども含めホームページで閲覧できるようにしている。
- ▼ 創作普及課では、利用者の要望が多い木工房と陶工房にて利用者との意見交換会を行い、運用改正などについて議論し、利用者の意見を運用に活かすなど要望対応に努めた。
- ▼ 札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。
- ▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。
 - ・管理業務に関する諸規程
 - ・文書管理簿

- ・各年度の事業計画及び事業報告書
- ・収支予算・決算に関する書類
- ・金銭出納に関する帳簿
- ・物品の受払いに関する帳簿
- ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類
- ▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。
- ▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。
- ▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。

2 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上（事故の有無などの安全衛生面を含む）

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 適正な内容で 36 協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。
- ▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。
- ▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。
- ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。
- ▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。
- ▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。
- ▼ 木工房の管理運営にかかる法令・通知・公示と安全衛生の向上や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に努めたほか、労働安全衛生法に準拠した木工房管理マニュアルを整備し、より一層安全な工房管理に努めている。
- ▼ 労働災害・事故について、8件の労働災害が発生した。

- ▼ 労働災害を防止するための対策として、衛生委員会や常駐業者も含めた施設ミーティングの中で注意喚起や必要な情報の共有を日常的に行うほか、職員に順次、労働安全衛生法による職長・安全責任者講習を受講させ、意識向上に努めている。

3 施設・設備等の維持管理業務

- ▽ 総括的事項（利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入）

【札幌芸術の森】

- ▼ 利用者の安全を確保するため、園内の施設、設備の定期的な点検・維持管理を行っている。
また、管理課職員と常駐委託業者をメンバーとした施設連絡会議を週に1回実施し、施設管理に係る情報共有、安全教育を行った。
- ▼ 園内へのヒグマ進入防止のため、園の外周に電気柵を設置し対策を講じている。電気柵の維持管理については、専門業者による早期の設置と定期点検を行うほか、職員による目視点検を日常的に行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。電気柵撤去後の11月28日に熊出没が確認されたが、警備員による警備巡回の強化の他、職員による開園前パトロールなど利用者が安心して利用できる環境の確保に努めた。
- ▼ 冬季は、除雪業者と連携をはかり、急な天候の変化などにも迅速かつ細やかに対応し、来園者の利便性が損なわれないようにするとともに、安全の確保にも努めた。車道、園路が凍結している時には砂まきや融雪剤の散布等をこまめに行うとともに注意喚起の掲示を増やし、転倒や事故の防止に努めた。
- ▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て改訂した拾得物取扱マニュアルにより適切に取り扱っている。また、落とし主に速やかに返却されるよう、拾得物の情報を職員及びスタッフ間で随時共有している。
- ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。
- ▼ 建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。
- ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。
- ▼ 利用者の人身・物損事故は無かった。
- ▼ ボイラー煙突断熱材へのアスベスト含有による暖房停止により、厳冬期の本館の温度維持ができなくなったため、札幌市から貸与されたヒーターなどを活用し、最低限の環境維持に務めた。
また、近隣や関係団体への情報提供を行い、不安解消につとめた。

- ▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等）

【札幌芸術の森】

- ▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる業務、電気・空調設備等の建物保守関係の業務、野外ステージや美術館に関わる管理業務等業務、合計 47 業務について第三者委託により実施した。
- ▼ 主な修繕について
 - ①札幌芸術の森センター地下重油タンク液面計修繕
 - ②センター・アートホール間通路石板補修
 - ③美術館正面入口前通路補修
 - ④アートホール 冷温水一次ポンプ（No.2）修理
- ▼ 野外美術館の作品は、その設置環境ゆえ定期的な状態の確認、補修を行っている。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。
- ▼ 主に下記の修繕を行った。
 - ・本館電磁錠交換
 - ・電話機主装置の基盤取り換え
 - ・ボイラーのバーナー作動不良点検修理

- ▽ 防災

【札幌芸術の森】

- ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。
 - ・第1回消防訓練（総合） 12月4日
 - ・第2回消防訓練（机上訓練） 3月22日

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。
 - ・地震発生時を想定した消防訓練 12月28日

4 事業の計画・実施業務

【札幌芸術の森】

- ▽ 音楽・舞台芸術事業

▼ 札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ 2023

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催 17 回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。

①シアタージャズライブ

入場者数：2,573人

12月、札幌文化芸術劇場 hitaru の舞台上にステージと客席を設け、優れた舞台機構を活かしたジャズライブを5日間7公演にわたり実施。ニューヨークから大江千里トリオ、札幌出身の馬場智章などが出演し盛況となった。

②市民交流プラザを活用した普及事業

入場者数：3,349人

施設間連携事業の一環として札幌市民交流プラザの機能を活用し、ジャズの入り口として誰でも気軽にジャズを楽しむことができる「ユニバーサルジャズライブ」や、札幌市図書・情報館とのタイアップによる「ジャズライブラリー」などの事業を開催した。

③ビッグバンドプロジェクト

入場者数：734人

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンで編成した札幌ジャズアンビシャスによるビッグバンドジャズの普及事業を実施した。10月には札幌コンサートホール Kitara にて定期演奏会を行ったほか、11月には道内におけるプロモーションと地域交流を目的として、豊頃町にて現地団体主催の文化事業に出演した。

④企業・団体とのタイアップによる事業

入場者数：72,427人

チ・カ・ホを会場としたサッポロ・サウンド・スクエアや、北ガスグループとのタイアップイベントである創成 East JAZZ など、さまざまな企業・団体とタイアップし、地域や商業施設でのにぎわいの創出、北海道観光の振興を目的としたジャズライブを開催した。

⑤海外プロモーション

入場者数：延期

海外プロモーションとして予定していた、過去3年にわたるパークジャズライブコンテスト優勝アーティストの海外ジャズフェスティバルへの派遣については、受け入れ先調整の都合により、翌年度に延期とした。

▼ 次世代の文化芸術の担い手の育成・支援事業

①第24期札幌ジュニアジャズスクール

24年目を迎えた当事業では、札幌芸術の森での毎週末を中心とした定期練習のほか、市内外での演奏会開催やイベントでの演奏などの活動を、通年で多数実施した。

②北海道ジャズの種プロジェクト

入場者数：66,431人

ジュニアジャズ活動の振興を目的とした北海道ジャズの種プロジェクトでは、道内4地域（広尾、ようてい、幕別、砂川）のジャズスクールと連携し、砂川市や留寿都村での合同合宿や、幕別町での合同演奏会「ともだちコンサート」を実施した。また、Seiko Summer Jazz Camp のアメリカからの講師陣や、在日米陸軍軍楽隊によるワークショップを開催し、国際交流も図ることができた。

③札幌芸術の森バレエセミナー2023

受講者数：111人（内21人は一般・指導者向け講座受講者）

見学者数：400人

若手ダンサー育成を目的として33回目を迎えた当セミナーは、パリ・オペラ座バレエ団教師のジル・イゾアールを主任講師に迎え、同団現役エトワールのローラ・エケなど国内外で活躍する講師陣を招き、クラシックからコンテンポラリーまで充実したプログラムで5日間にわたり開催した。特別プログラムとして、過年度受講生でパリ・オペラ座にて活躍するクララ・ムーセーニュと山本小春による公開レッスンや交流会を行った。

④北海道グループキャンプ

受講者数：14人

入場者数：180人（Final Live）

5年ぶりにアメリカ・ボストンのバークリー音楽大学から現役教授のタイガー大越を招聘し、同音大のメソッドを札幌で受講できる5日間の集中セミナーを3月に開催した。全国から公募し、事前の動画審査で選考した14名の中高生が受講。

最終日には成果発表としてFinalLiveを行い、特に優秀と認められた受講者には、バークリー音楽大学のサマープログラムに奨学生として参加できる「バークリー賞」、次年度の北海道グループキャンプに無料で参加できる「グループキャンプ賞」を授与した。

また、セミナー開催にあわせ、アウトリーチ事業として校内ジャズバンドを有する中の島小学校を訪問し、タイガー大越によるジャズクリニックと交流会を行った。

▼ 芸術文化を通じた市民活動の促進

パークジャズライブ

入場者数：32,437人

プロ・アマ問わず市民ミュージシャンに広く発表の機会を与え、音楽による市民活動の促進と市民文化の醸成を目的として、全国から出演者を募集し、7月に2日間にわたり市内10会場で無料ライブを開催した。

また、参加者の中から事前の音源審査を通過したファイナリストによるライブ形式でのコンテストを札幌芸術の森で実施し、優勝バンドに国際ジャズフェスティバル出演権を授与した。

また、サッポロ・シティ・ジャズ全体を支える市民ボランティア「ジャズセーバーズ」を組織し、パークジャズライブやシアタージャズライブなど各イベントの運営を支える活動を行った。

▼ 質の高い文化芸術の創造・提供

シアタージャズライブ [再掲]

▼ 各種団体との連携による文化芸術の振興

各種団体共催・施設利用促進事業

入場者数：1,372人

芸術の森施設を活用し、各種団体との共催事業を実施。アートホールでの「Seiko Summer Jazz Camp All Stars in Sapporo」や野外ステージでのダンスミュージックフェス、芸術の森の自然風景を生かしたコスプレイベントなどを共催により実施した。

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数：6本

総入館者数：240,192人

(自主事業「札幌美術展 艾沢詳子 gathering—集積する時間」を含む。)

①札幌美術展 艾沢詳子 gathering—集積する時間

会期 令和5年4月15日～6月11日 56日間

入場者数 4,086人

札幌・北海道にゆかりの作家を紹介する「札幌美術展」の第16回として、札幌市を拠点に活動する艾沢詳子(1949-)の個展を開催した。

本展では艾沢のこれまでの活動を振り返りつつ、作家が近年関心を寄せるアートとテクノロジーが融合する新作を紹介した。作家の制作に通底する世界観を提示し、多彩な創作活動を続ける作家の全貌に迫った。

②STV 創立65周年記念 チームラボ 学ぶ!未来の遊園地と、花と共に生きる動物たち

会 期 令和5年7月8日～9月3日 58 日間

入場者数 153,735 人

最新のテクノロジーを活用し、体験型のデジタルコンテンツの開発を行うアート集団チームラボ。インタラクティブアート作品《花と共に生きる動物たちⅡ》のほか、「共創（共同的な創造性、Co-Creation）」をコンセプトにした教育的なプロジェクト「学ぶ！未来の遊園地」から5つを抜粋し計6作品を展示した。また、展示室内で描いた絵を缶バッジにすることができる「お絵かきファクトリー」も同時開催した。

③深堀隆介展 水面のゆらぎの中へ

会 期 令和5年9月16日～11月23日 66 日間

入場者数 48,308 人

金魚に魅せられ、創作を続ける美術作家・深堀隆介（1973- ）の北海道初個展。初期の立体作品から、絵画、映像、大規模なインスタレーションなど新作を含む作品 291 点を一挙に紹介した。深堀が一貫して取り組んできた金魚の造形に改めて焦点を合わせ、描くこと、幻影と物質の同居というリアリズムに対する作家の思想に迫った。

④札幌国際芸術祭 2024 明和電機ナンセンスマシーン展 in 札幌

会 期 令和5年12月16日～令和6年3月3日 63 日間

入場者数 16,806 人

札幌国際芸術祭 2024 の会場の一つとして、芸術ユニット「明和電機」の単独展を開催。

明和電機は青い作業服を着用し作品を「製品」、ライブを「製品デモンストレーション」と呼ぶなど、日本の高度経済成長を支えた中小企業のスタイルで、「ナンセンスマシーン」と呼ばれるユーモラスな機械を開発しライブや展覧会など国内のみならず広く海外でも活動を行っている。本展では、1993 年の創立以来の「ナンセンスマシーン」を一堂に集め、プレゼンテーション自体をアートにしてきた活動の軌跡を紹介した。

⑤札幌国際芸術祭 2024 メディアアーツ都市・札幌って知ってました？

会 期 令和5年12月16日～令和6年3月3日

入場者数 12,739 人 63 日間

ユネスコ創造都市ネットワークに「メディアアーツ都市」として加盟している札幌市は、「アート」のみならず、「産業」「テクノロジー」「都市空間」といった幅広い領域を対象に、さまざまな活動を行ってきた。

本展では札幌から生まれたテクノロジーやクリエイティブ産業に今一度目を向けて、札幌の「メディアアーツ都市」を紐解いた。

⑥札幌芸術の森美術館コレクション選 マスカレード 踊る！

仮面の謝肉祭と、霊と共に生きる部族たち

会期 令和5年7月15日～9月18日 66日間

入場者数 38,286人

札幌芸術の森美術館所蔵品の公開を目的とし、工芸館を会場に開催した。本展では竹岡羊子（1931-）のカーニバルをモチーフとした大型絵画6点と、アフリカ部族の儀式用仮面8点を展示し、「変装」「信仰」という「仮面」の多義性を明らかにした。

▼ 野外美術館

期日： 令和5年4月29日～11月3日

入場者数：40,954人

※6月3日からは謎解きイベント「白銀の空想ミュージアム」を併せて実施した。来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア27名による作品解説を行った。野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、「彫刻鑑賞ノート」と、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができる子ども向けの「シールマップ」を販売した。また、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。

▼ 教育普及に関する事業

[佐藤忠良記念子どもアトリエ]

当財団の中期経営計画の重点取組項目である子どもたちの芸術文化活動の充実に取り組む事業として、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした所蔵品を展示するとともに、子どもを主な対象としたワークショップの企画・実施をした。

<ねんどで彫刻>

ブロンズ粘土で自由に彫刻をつくるワークショップ。

期日：令和5年4月1日～7月17日、8月26日～12月10日の土・日・祝に開催した。

平日はワークショップで使用している粘土のテイクアウト販売を行った。

参加者数：423人

<お絵かき相談室>

使用する画材や作品制作の悩みについてスタッフが事前にヒアリングを行い、当日参加者が実際に画材を持ち込み、スタッフからアドバイスを受けながら絵画制作を行った。

参加者数：2名

<岩えのぐで彩色！クリームソーダ>

日本画の材料である岩絵の具とにかわを自身で混ぜて絵の具を作り、日本画の技法を学びながら作品制作を行った。

期日：令和5年8月1日～4日、8日～9日 計6日間、12回

参加者数：45名

<なまえのないめいし>

シールやカードの入ったキットを利用し、ワークショップルームで文字を使わず自由に名刺を作成のうえ、任意で掲示し他の参加者の作品と交換した。

期日：令和5年7月22日、23日、29日、30日、8月5日、6日、11日～20日 計16日間、126回

参加者数：133名

<ちびっこ油絵>

重厚感のある表現ができる油絵の特性を学び、自由に作品制作を行うワークショップを開催した。毎年人気のワークショップで、すぐに定員に達する事から、今年度は2月に追加開催した。

期日：令和5年12月23日、24日、

令和6年1月6日～8日、1月13日～14日、

1月20日～21日、2月10日～12日 計12日間、24回

参加者数：84名

▽ 工芸・工房事業

▼ 第23期工芸館常設展示事業

工芸館の展示ホールにクラフト作品の展示スペースを通年設置。開設から23期目となる今年度も北海道のクラフト作家に展示発表の機会を提供することにより、工芸館を訪れた市民が暮らしを豊かに彩る作品と出会い、気軽に触れることのできる場を目指した。

季節ごとに20数人ずつ出展作家を入れ替え、陶芸・木工・金工・ガラス・テキスタイルなど北海道に根付いた様々なジャンルの作品を紹介・販売した。作品には作家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対してより親しみを持てる展示となるよう工夫した。

今年度の出品作家は道内で活動する若手を中心にとりあげた63人。

また、工芸作品の一部を芸術の森ホームページにてオンライン販売し、32,010円の販売実績があった。

会期：令和5年4月29日～令和6年3月3日

※11月18日～12月10日の期間は土日祝日の開場

会場：工芸館展示ホール・クラフトギャラリー「ベストポケット」

幹旋販売額：4,970,310円（前年度実績：4,625,450円）

入場者数：67,088人（前年度実績：41,040人）

▼ 北海道陶芸会 55 周年記念「陶・新時代ー北からのメッセージ」

北海道内のプロ陶芸家で結成された北海道陶芸会が創立 55 周年を記念して、工芸館で作品展を開催。北海道陶芸会の会員作家、道外からの招待作家の作品に加え、同会と交流のある米国オレゴン陶芸家協会の作家による作品も公開された。

関連企画として期間中には招待作家による作陶デモンストレーション、ワークショップ、ギャラリートーク(作家本人による作品解説)、野焼きによる作品製作体験が工芸館やクラフト工房などで開催された。

会期：令和 5 年 10 月 21 日～11 月 5 日 16 日間

会場：工芸館展示ホール

主催：札幌芸術の森（札幌市芸術文化財団）、北海道陶芸会

入場者数：5,895 人

▼ 工芸・版画講習会事業

クラフト工房と各工房において、ものづくりを愛好する人の裾野拡大と技術習得・向上を目的とした講習会を通年で開催した。陶芸、テキスタイル、手織、木工、七宝、ガラス、版画の各分野で、個人向けの講習会と団体向けのグループ講習会、また予約なしで気軽に作品制作が楽しめる「ふらっとクラフト体験」に加え、作家を講師に招いたワークショップや木工房の大型製材機経験者を対象とした大型製材機安全講習会を開催するなど、初心者から上級者までの幅広い層を対象としたプログラムを実施した。

また、ゴールデンウィーク、芸術の森バースデー、夏・冬休みには子どもが参加できる講座を増やし、多くの子どもの参加を促進した。

また前年度に引き続き気軽に制作体験できるキット「おうち de クラフト」をクラフト工房窓口やオンラインストアなどで販売し、時間や場所に縛られず、ものづくりを体験できる機会を創出した。

(令和 5 年度は 8 種を販売)

会期：令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月

会場：クラフト工房（大・中・小制作室）、木工房、織工房、染工房、
版画工房

講習会総実施回数：382 回（前年度実績：316 回）

講習会総受講者数：4,671 人（前年度実績：3,432 人）

ふらっと体験参加者数：3,171 人（前年度実績：2,148 人）

(織機でコースター体験を含む)

ものづくり制作体験キット販売個数：294 個(前年度実績:466 個)

▽ その他の文化芸術事業

▼ 芸術の森アートマーケット

札幌芸術の森の園内を会場に、市民アーティストの相互交流や発表の機会の創出を目的に、様々なジャンルの手作りアート作品によるアートマーケットを開催した。

▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興

野外フェスイベント「BIG FUN」を共催事業として昨年に引き続き、夏の芸術の森野外ステージで開催した。

また、園内の環境を活用し、マンガやアニメのキャラクターに扮するコスプレ撮影イベント「あめいず村」を共催で開催した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

▼ 総入館者数 12,548 人本館 9,275 人、記念館 3,273 人)

【本館】

下記の展覧会を開催した。

●特別展

①「New Eyes 視線の話」

会期：令和4年12月24日～令和5年4月16日

93日間（令和5年度14日間）

入場者数：令和5年度343人

②「彫刻60年 鈴木吾郎展 悠久を舞う」

会期：令和5年4月29日～8月27日

104日間

入場者数：2,598人

③「生命体の存在」

会期：令和5年9月16日～12月17日

78日間

入場者数1,859人

④札幌彫刻賞歴代受賞者パネル展

会期：令和4年9月10日～令和5年4月16日

9月16日～令和6年5月26日

86日間（令和5年度158日間）

入場者数：4,059人（令和5年度2,794人）

⑤「さっぽろ雪像彫刻展2024」

会期：令和6年1月26日～28日

3日間

入場者数：1,080人

●コレクション展

①「はじめてのほんごうしん」

会期：令和4年1月28日～5月31日

106日間（令和4年度52日間）

入場者数：519人（令和4年度）

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型などの常設展示を行った。

①「コレクション展 2022-23」

会期：令和4年6月11日～令和5年4月16日

257日間（令和5年度14日間）

入場者数：4,093人（令和5年度314人）

②「コレクション展 石と木」

会期：令和5年4月29日～令和6年5月26日

329日間（令和5年度281日間）

入場者数：3,127人（令和5年度）

③「コレクション展 かく語りき本郷新「彫刻は詩の塊だ!」

会期：令和6年1月19日～5月26日

111日間（令和5年度63日間）

入場者数：453人（令和5年度）

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞（第4回）

・作品募集、選考

「第4回本郷新記念札幌彫刻賞」

会期：令和5年3月下旬～9月3日

応募総数：18点

選考会：令和5年9月27日

受賞作品：藤原千也「太陽のふね」

授賞式：令和5年10月26日

▼ 普及事業

●彫美連続講座 2023

実施回数：3回

参加者数：249人（会場聴講145人、オンライン聴講104人）

会場：札幌市民交流プラザ（オンラインでも配信）

●造形教室

・夏休み造形教室

参加者数：17人

・冬休み造形教室

参加者数：17人

- 館長の日曜講話
実施回数：13回
参加者数：371人

▼ 学校協力

- 学芸員資格取得希望の大学生を対象とした博物館実習（館園実習）の受け入れ
参加学生数：大学4年生3人（7日間）
- 札幌市立大倉山小学校3年生美術館見学
参加児童数：63人
- 札幌西高等学校美術選択1年生展覧会鑑賞
参加生徒数：68人
- 札幌市立啓明中学校職場体験の受け入れ
参加生徒数：3人
- 三角山小学校3年生の総合的な学習の時間枠での博物館利用
参加児童数：延べ148人
- 札幌市立宮の森中学校3年生展覧会観覧
参加生徒数：80人

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

①サンクスデー

- 実施回数：2回
入館者数：678人（夏345人、秋328人）

②さっぽろ雪まつり出品②さっぽろ雪まつり出品

▼ ボランティア活動の受け入れ

ハロー！ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア（協力員）を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、本郷新の自著をデジタル化する作業を「資料整理ボランティア」の協力のもと行った。

▼ 連携事業

財団他施設との連携

- ・札幌文化芸術交流センター SCARTS と連携して「彫美連続講座」を3回開催した。

5 施設利用に関する業務

【札幌芸術の森】

▽ 利用件数等

▼ 施設の利用状況

		R4 実績	R5 計画	R5 実績
アート ホール アリーナ	件数(件)	244	212	243
	人数(人)	15,056	14,367	20,128
	稼働率(%)	67.8	69	67.9
アート ホール 練習室	件数(件)	2,149	1,602	2,215
	人数(人)	14,807	11,461	16,573
	稼働率(%)	60.8	53	61
野外 ステージ	件数(件)	44	32	40
	人数(人)	9,963	7,047	13,590
	稼働率(%)	24	36	21.2
各種 研修室	件数(件)	3,688	2,877	3,590
	人数(人)	4,317	3,353	4,456
	稼働率(%)	70.9	70	69.6
各種窯	件数(件)	273	204	342
	人数(人)	273	204	342
	稼働率(%)	29.3	19	34.7
各種 アトリエ・ ロッジ	件数(件)	215	161	239
	人数(人)	1,347	915	1,710
	稼働率(%)	16	15	17.6
駐車場	件数(件)	61,659	64,886	87,731

▼ 入場者数

(人)

		R4 実績	R5 計画	R5 実績
総入園者数		410,210	372,150	503,747
	芸術の森美術館	145,398	143,951	242,899
	芸術の森野外美術館	61,451	48,306	60,040

▽ 不承認 0 件、取消し 61 件、減免 639 件、還付 20 件

▽ 利用促進の取組

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親んでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを 8 事業開催した。

- ① スプリングフェスタ (てくてく MORI さんぽ・かいだん なんだん?)
- ② 有島武郎旧邸でゆったり日本茶のひとときを
- ③ 野外美術館謎解きイベント・白銀の空想ミュージアム
- ④ 芸森バースデー2023

- ⑤ホールでピアノを弾いてみよう！ in 札幌芸術の森
フルコンサートピアノ試奏会
- ⑥あしたのげいもり
- ⑦芸森かんじきウォーク
- ⑧芸術の森地区 雪あかりの祭典

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 利用件数等

▼ 施設の利用状況

展覧会事業		R4実績	R5計画	R5実績
本館 展示室	展覧会件数	4	5	5
	開館日数	281	257	259
記念館	展覧会件数	2	2	2
	開館日数	295	257	295
本館入館者数		7,502	10,104	9,000
記念館入館者数		4,344	4,422	5,000

その他事業		R4実績	R5計画	R5実績
本館展示室利用	利用件数	0	0	1
	利用日数	0	0	5
本館 研修室利用	利用件数	3	0	0
	利用日数	13	0	0
本館 屋外利用	利用件数	2	0	1
	利用日数	7	0	8

▽ 不承認 0件、 取消し0件、 減免 0件、 還付 0件

▽ 利用促進の取組

- ▼ 「サンクスデー」として年2回無料開館し、ものづくりやオリジナル飲食物販売など楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

6 付随業務

▽ 広報業務

【札幌芸術の森】

▼ 広報の充実

園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。

- ▼ ホームページによる情報発信の充実

平成 28 年 11 月に全面リニューアルのホームページ内容をさらに充実させた。また、季節にあわせトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。

サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。

 - ・ ホームページアクセス数

R5 : 2,602,959 件 (参考) R4 : 1,822,301 件
- ▼ その他 SNS による情報発信の充実

Twitter、Facebook や Instagram でリアルタイムの情報発信を行った。
- ▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供

毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2023 年 3 月 16 日にホームページに公開した。
- ▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2024 年 2 月 26 日にホームページに公開した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 通常のホームページ運営に加え、Facebook や X などの SNS でのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。

ホームページアクセス数 : 32,143 件 (参考) R4 : 30,973 件

Facebook フォロワー数 : 1,245 件 (参考) R4 : 1,171 件

X フォロワー数 : 5,014 件 (参考) R4 : 4,976 件

芸術の森との連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有も行っている。
- ▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を 2023 年 3 月 26 日に実施し、結果をホームページに公開した。
- ▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格 JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠するとした「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。

▽ 引継ぎ業務

(前回から継続指定のため、引継業務なし)

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

【札幌芸術の森】

- ▼ 例年同様、令和5年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者（シルバー人材センター）に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業や作業着等のクリーニングを、近隣の就労支援施設に発注している。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。

7 利用者アンケートの結果

【札幌芸術の森】

実施方法	令和5年4月～令和6年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。
結果概要	回答 3,676 件 (施設利用者アンケート 454 件、事業アンケート 3,222 件) 施設に対する総合的な満足度は93.5%（「とても良い」、「良い」、「普通」の合計）と、例年とほぼ変わらない満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度については99.4%（「とても良い」、「良い」、「普通」の合計）と増え、ほぼ100%であった。 いただいた意見や要望については、常駐業者も含め関係者に情報共有し、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

実施方法	無記名の記入方式（通年）
結果概要	<p>回答 858 件</p> <p>来館者の接遇に対する総合的な満足度は約 97.1%（「大変良い」、「まあ良い」、「普通」の合計）、施設についての満足度は約 97.1%（「とても満足」、「まあ満足」、「普通」の合計）と、総じて高い評価を得ることができた。</p>
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【要望】 交通手段が慣れていなくてわからなかった。</p> <p>【対応】 バスの時刻表の掲示や地図の表示を工夫する。</p> <p>【要望】 入口の扉がいたんでいて、とっばじめに期待がしぼんだ。</p> <p>【対応】 修繕が可能かどうかを調査。</p> <p>【要望】 寒かった。</p> <p>【対応】 煙突工事のためボイラーが使えない時期があった。既に復旧済み。</p>

II 管理業務に係る収支決算

【札幌芸術の森】、【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 収支一覧

(千円)

項目	R5年度計画	R5年度決算	差(決算-計画)
収入	853,493	913,703	60,210
指定管理業務収入	823,141	882,891	59,750
指定管理費	688,251	706,929	18,678
利用料金	57,176	74,424	17,248
その他	77,714	101,538	23,824
自主事業収入	30,352	30,812	460
支出	901,823	922,804	20,981
指定管理業務支出	861,997	884,803	22,806
自主事業支出	39,826	38,001	▲ 1,825
収入-支出	▲ 48,330	▲ 9,101	39,229
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 48,330	▲ 9,101	39,229

▽ 説明

- ▼ 指定管理費について、今期は令和5年4月～令和6年3月までの光熱費高騰分の札幌市による補填を受けたことにより、増収となった。
- ▼ 利用料金収入は主に野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。野外美術館への入館者が多かったことで観覧料収益が増加、更に美術館展覧会も好調であったことから入園者が増えたことに伴い、駐車場利用料収益も大きく増収となった。
- ▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等以外に実行委員会を構成して実施する事業の決算剰余金の配当も含まれる。美術館で行われたチームラボ展、深堀展が好調であり、それぞれ決算金収益として、23,581千円、6,174千円であった。
- ▼ 指定管理業務支出について、前年度に引き続き光熱費の高騰により費用を要したことなどから、支出増となった。
- ▼ 自主事業については、入園者増に伴い自動販売機の手数料収入が増収となり予算より収支が良化した。

Ⅲ 管理に関する協定書 第33条に規定する自主事業の実施状況

1 飲食・物販事業

【札幌芸術の森】

▽ レストラン事業

センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供。冬季間は手軽におにぎりや豚汁を楽しめるテイクアウトメニューを提供。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルリア」を営業した。(利用者：24,485人)

▽ 売店事業

運営しているミュージアムショップでは、Polaire を直営で運営している。オリジナルグッズや地元アーティストの作品を販売したほか、展覧会関連グッズや展覧会・季節にちなんだフェアを行い集客に努めた。オンラインショップでは、過去の展覧会図録を中心にオリジナル商品の販売を始め来館者へのサービスアップを図った。また、美術館収蔵品をモチーフとしたオリジナルグッズを新たに製作・販売した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。

2 補助金交付の対象となる自主事業

▽ 札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ 2023

※音楽・舞台芸術事業再掲

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催 17 回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。

▽ 「札幌美術展 艾沢詳子 gathering—集積する時間」(札幌市補助事業)

※展覧会事業再掲

毎回テーマを設定し、地域の美術家を紹介してきた「札幌美術展」。今回は札幌市を拠点に活動する艾沢詳子(1949-)の個展を開催した。

▽ 子どもの文化芸術体験事業「ハロー!ミュージアム」

重点取組項目にある子どもたちの芸術文化活動の充実に資する事業として、札幌市の小学校、義務教育学校および特別支援学校小学部の5年生を札幌芸術の森もしくは本郷新記念札幌彫刻美術館に招待し、芸術作品の鑑賞やそれを踏まえた表現活動に取り組む機会を子どもたちに提供した。募集時に活動希望した201校のうち、199校が参加した。熱中症対策等、学校の判断による延期または中止により、日程変更等は20校、中止は2校。学校とは基本的にメールで連絡調整を行い、ホームページや予約システムの導入等オンライン化した業務は概ね円滑に機能している。また、各学校の担当教諭を対象

に説明会を開催し、当日の活動を想定した説明や会場の下見を通して理解を深めた結果、鑑賞活動の充実に直結した。

コース別参加校数等

- ・芸術の森美術館コース:86校 89回
- ・野外美術館コース:87校 87回
- ・子どもアトリエコース:10校 10回
- ・彫美・鑑賞コース:13校 18回
- ・彫美・表現コース:3校 3回

総参加校数：199校 207回

総参加児童数：13,949人